

フランスの大学におけるEU外学生への学費導入計画について

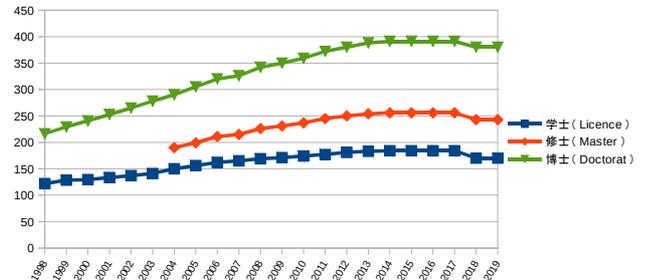


1. 学生納付金制度
2. EU学生を対象とした学費導入

大場 淳
 広島大学高等教育研究開発センター
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/oba/>

1. 学生納付金制度

- 低廉な登録料 (frais d'inscription) のみを課す準無償制
 - 学士170€、修士243€、博士380€



• 授業料(値上げ)についての見解

大場(2016:2018)

- 否定的意見 (現状維持)
 - ▷ 学生諸団体
 - ▷ 高等教育省(2015国家高等教育戦略: StraNES)
 - 「市場モデル」の否定
 - 準無償制は世界の学生を対象とした収入に関係のない「奨学金」
- 肯定的意見
 - ▷ CPU(2001年総会)
 - 大学が提供する高等教育は公役務 (service public) であるものの、公役務が必然的に無償ではない。
 - ▷ フランス戦略庁 (Charles & Delpech, 2015)
 - 国際化を推進するためにEU外学生からフルコストを徴収する
 - 8億5千万ユーロの追加収入が見込まれ、留学生の奨学金や待遇改善に活用する

目的	方策	予算	%
公平	①奨学金政策の見直し(主として仏語圏アフリカ諸国対象、3万人)	440	51.8
質	②留学生の待遇改善(各種支援の充実)	280	32.9
魅力	③高等教育機関の国際化の支援(国外での教育提供等)	52.5	6.2
	④教育提供の電子化への支援(MOOC等)	70	8.2
	⑤誘致・広報活動への支援(ブランド戦略等)	7.5	0.9
	EU外の学生(除博士課程)へのフルコスト学費徴収による収入総額	850	100.0

France Stratégieが提唱する今後5年間の行動計画(百万ユーロ)

La grande misère des universités françaises

• 準無償制の問題点

- 予算不足
- いわゆる「幽霊学生」の存在
- 所得配分における逆進性
- 国際市場において「質のシグナル(signal de qualité)」と受け止められること



Les frais de scolarité ne jouent pas dans un sens unique : ce n'est pas leur niveau en tant que tel qui est décisif pour le choix d'expatriation mais plutôt un rapport complexe entre qualité et prix. Le prix élevé peut agir comme un signal de qualité auprès de certains publics. (Charles Delpech 2015)

2. EU学生を対象とした学費導入

• フランスにおける留学生

- 2018年現在34万人(非英語圏では最大)
 - ▷ 近年増加傾向(過去5年で2割増)
 - ▷ 主な出身国
 - モロッコ 39,855
 - アルジェリア 30,521
 - 中国 30,072
 - イタリア 13,341
 - チュニジア 12,842
- 24万人(7割)が大学に在籍
 - ▷ 176千人が学位取得を目指す留学生
 - ▷ 153千人(87%)がEU外出身者

Principales nationalités	Etudiants en mobilité diplômante en 2017-18		
	Effectifs	Répartition (en %)	Part des femmes (en %)
Algérie	23,150	13.1	46.4
Maroc	22,116	12.6	44.4
Chine	13,722	7.8	64.5
Sénégal	7,890	4.5	36.5
Tunisie	7,832	4.4	57.6
Côte d'Ivoire	4,805	2.7	43.3
Liban	3,482	2.0	52.2
UE	22,847	13.0	65.8
dont : Italie	5,467	3.1	64.8
Autres nationalités hors UE	70,308	39.9	-
Total	176,152	100	51.5

Note Flash du SIES n° 4, février 2019

• 2018年11月19日、留学生誘致のための政策“**Bienvenue en France**”を発表

- 2027年までに留学生を50万人に拡大
- ビザ発給の簡素化
- EU外学生からの学費徴収(実際の経費の1/3以下)
 - ▷ 学士課程 2,700€
 - ▷ 修士・博士課程 3,770€
- 学費免除と奨学金対象の拡大
 - ▷ EU外学生の1/4が対象

A compter de la rentrée 2019, les étudiants extra-européens qui s'inscrivent pour la première fois dans un cycle supérieur de formation en France devront acquitter des frais d'inscription différenciés, qui apporteront plus d'équité : 2 770€ en licence et 3 770€ en master, soit moins du tiers du coût réel de la formation. En parallèle, il est prévu de démultiplier les exonérations et de tripler les bourses. Au total, un étudiant international sur quatre pourra bénéficier d'une exonération ou d'une bourse. (Site web du MESRI)

• EU外学生への学費導入の背景

Andler et al., 2019

- 本政策は、二つの立場の妥協の産物
 - ▷ 現状維持 (statu quo)
 - ▷ 経済主義 (économicisme)
- 導入を正当化する根拠
 - ▷ 公平と連帯 (équité et solidarité)
 - フランス国民の税負担の適正化
 - 先進国・新興国や裕福な家庭の留学生が主対象
 - ▷ 無償が低質と捉えられる
 - ▷ スウェーデン、デンマークで先行事例
 - 学費導入直後は減少するが、その後回復

• 大学長会議(CPU)の反応

- 2018/12/10 声明文書
 - ▷ 留学生の受入れ拡大・改善には資金が必要であるが、EU外学生のみを対象とした学費値上げは不適切。
 - ▷ 学生(特に博士学生)の確保に困難を来す恐れがある。
 - ▷ 事前の協議がなかったことは遺憾である。
- 2019/3/25 国際担当理事インタビュー
 - ▷ 中国人が質と価格を連動して考えていることに政府内で不満がある。
 - ▷ 学費徴収の背景は大学の資金不足。政府は、学生を増やすのであれば大学の負担としたい。できれば他の経費も。
 - ▷ CPUは反対したが政府に押し切られた。
 - ▷ EU内外の学生で学費に差を設けるのは、フランスの大学の伝統的な文化にそぐわない。全体を上げるのは良いが。
 - ▷ 仏語圏の留学先が多様化しており、学費導入はフランス離れに繋がりがかねない。
 - ▷ 学費免除は大学の判断次第。大学によって財務状況が違う。

• その後の経緯

- 反対の動きの広がり
 - ▷ 学生が各地で反対活動を展開
 - ▷ 執行部は、EU外学生に学費を適用しない方策を模索
- 2019/2、ザリオらの報告書(Zalio et al., 2019)が博士学生の学費適用除外を提言。
- 2019/2/23、博士学生を学費導入対象から除外とすることを表明
- 個別の国毎に学費適用除外の交渉



参考文献

- 大場淳(2016)「フランス:高等教育の国際化の特色と課題」松塚ゆかり編『国際流動化時代の高等教育:人と知のモビリティを担う大学』ミネルヴァ、51-76頁。
- 大場淳(2018)「フランスにおける大学の準無償制を巡る諸課題と対応」『大学マネジメント』13(12)、35-39頁。
- Andler, M., Bloch, D., Duhamel, C., Élie, A., Lichtenberger, Y., Mahatsiangy, F., Méla, J. -F., Miquelard-Garnier, G., Padis, M. -O., Paradiise, C., & Picques, F. (2019). Une stratégie internationale pour l'enseignement supérieur français. Paris: terra nova.
- Charles, N., & Delpéch, Q. (2015). Investir dans l'internationalisation de l'enseignement supérieur. Paris: France Stratégie.
- Zalio, P. -P., Blanchet, J., Gillet, P., Pham, M. -H., & Strassel, C. (2019). Mission de concertation sur la stratégie « Bienvenue en France ». Paris: Rapport remis à la ministre de l'enseignement supérieur, de la recherche et de l'innovation.